

珊瑚の保護

土佐清水の周辺の海には 100 種類以上の珊瑚が生息し、これほど北に位置しているにしては多様性が豊かです。ここで珊瑚がよく生育するのは、日本の太平洋岸に沿って北へ流れる黒潮（日本海流）が、南から暖かく澄んだ、酸素が豊富な海水を運んでくるからです。土佐清水近辺で目を引く生物といえば、見残し湾のシコロサンゴ（パボナ・デカッサタ）の大群落です。長さ約 50m のこの珊瑚群は、この地域でも最も印象深いものの一つです。しかし、この地域の気候が珊瑚に適している一方で、様々な脅威も珊瑚に迫っています。

2001 年 9 月に、極度の豪雨で土佐清水の一部など、高知県南西部で深刻な地すべりが起こりました。これらの地すべりの多くは海に達し、海洋生態系を崩壊させ、珊瑚を壊滅させました。災害の後で行われた調査により、被害がなかった森林も、適切な手入れがされている森林よりは地すべりが起こりやすくなっていることが分かりました。土佐清水の森林は現在、回復力を増すために定期的の間伐されています。地元の人々も海をきれいにしたり、海洋生物に呼吸する余地を与えるために余計な泥を取り除いたりしています。